

新潟県

公民館月報 10

平成13年10月号 通巻第584号

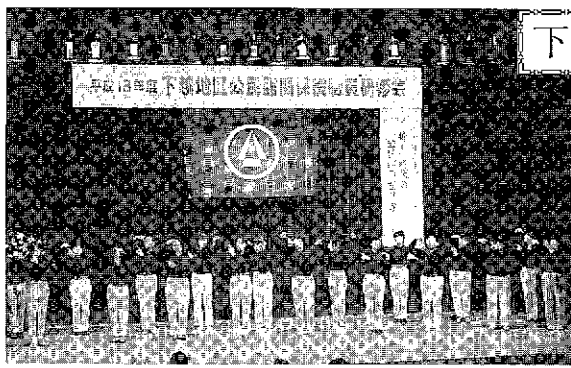


表紙 「夏休みチャレンジ
教室」特集。
(田上町公民館)

特集 十日町市公民館運営審議会
答申

視点 歳を重ねて更に輝く
ひろば 子ども囲碁教室を通して思ったこと
サークル交流 新発田市国際友好の会(新発田市公民館)
和の会(和島村公民館)
素顔拝見 栲沢 良也さん(新井市)
渡辺智恵子さん(水原町)

下越地区公民館関係役員研修会開催



△手話サークルの公演

第一分科会は「公民館の子育て支援のあり方」をテーマに、子どもを育てるために」と題して、巻町子育てネットワークミーズ・アイ代表から、子育て支援の必要性、子育て支援グループの立ち上げ、公民館への要望と課題等について問題提起され、これらを中心に、第一分科会との関連等にもふれながら話し合われた。第五分科会は「公民館運営審議会の役割と活動のあり方」をテーマに三川村公民館から発表された。どちらかという口説き、嘆きに終わりがち

この分科会も司会者の名進行により、資料等を駆使して任意設置や活動内容にも触れた点が印象的だった。第六分科会は初任者研修で「公民館事業企画の視点」をテーマにワークショップ形式の実務研修がなされた。第二日は、分科会の報告と研修の総括がなされた。今回、鳥屋野ハンズ手話サークルの公演が、参加者として一体となつてなされたのが印象的。最後は、現代の青少年の問題「キレる17才」と題して、新潟青陵大学碓井真史教授の記念講演で締めくくられた。

公民館がどう関わって来たかの紹介で、ユニークな分科会となった。第三分科会は「地域おこしに果たす役割」をテーマに、中条町中央公民館から、中世の歴史上の人物「板額御前」のイベントをめぐっての地域おこしの事例が発表され、その後、地域の活性化と公民館の役割についての討議が深められた。第四分科会は「地域ぐるみで

まず、「住民ニーズにこたえる学習相談と人材バンクの活用」と題して、県立生涯学習推進センターの梶瑤子学習相談員から実践的な基調講演がなされ、ついで「新津市における学校教育ボ

まず、「住民ニーズにこたえる学習相談と人材バンクの活用」と題して、県立生涯学習推進センターの梶瑤子学習相談員から実践的な基調講演がなされ、ついで「新津市における学校教育ボ

「研修と実践」をテーマに掲げ、絶えず研さんを怠らない中、公連主事部会の姿勢に敬意を表する次第である。

◆研修テーマ

『新しい時代の公民館の在り方』

一四〇余名の参加で

標記研修会は、新潟市公民館連絡協議会主催の下、9月11日(火)12日(水)の二日間におたり、新潟市万代市民会館を会場に、二四〇余名の参加を得て盛会裡に終了した。

初日は、開会式の後六つの分科会に別れて夕刻まで熱心な討議が展開された。

まず、「住民ニーズにこたえる学習相談と人材バンクの活用」と題して、県立生涯学習推進センターの梶瑤子学習相談員から実践的な基調講演がなされ、ついで「新津市における学校教育ボ

中越地区公民館職員研修会開催

◆研修テーマ

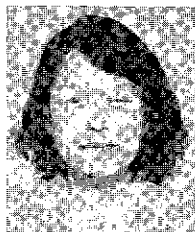
『住民のニーズにこたえる学習相談』 「人材バンクの整備と活用から」

学校現場での総合学習の実施や、公民館での地域住民の学習活動を支援していく上での必要性から、今回は、「住民のニーズにこたえる学習相談」人材バンクの整備と活用から」をテーマに設定し、去る10月4日(木)、南魚公連、中公連主事部会主管の下、一〇二名余の参加を得て六日町公民館で開催された。

ランティア活動推進事業」について、新津市教育センターの野村竹秀所長から数々の事例発表がなされた。これを受けての午後の分散会では「住民のニーズにこたえる学習相談」人材バンクの整備と活用」について、持ち寄った公民館の状況を資料として出し、合いながらバンクの設置方法等、具体的な方策を話し合った。最後に、各分散会の司会者から報告がなされた後、当連合会鈴木友夫事務局長より、まとめと総括がなされ、無事日程を終了した。

日程表

10:00	受付
	開会・オリ
11:30	基調講演 梶瑤子講師
	事例発表 野村竹秀講師
12:00	昼食・休憩
13:00	分散会協議 「住民のニーズにこたえる学習相談」
	全体発表 まとめ
16:00	閉会



特技を生かし、社会に貢献する人、趣味活動やスポーツにいそし

高齢化社会からいつのまにか高齢社会へと変わり、いろいろな場面で輝いている高齢者を見かけることが多くなりました。

視点

歳を重ねて更に輝く

篠田 令子

この団体は、一番若い人でも七十歳くらいで、恐らく平均年齢は八十歳を超えているのではないかという印象でした。しかし、歌い出すと持たせているのかもしれない。

全国公民館連合会

創立50周年記念

被表彰者決定!!

(新潟県公連該当者)

◆優良職員表彰

北村 秀成 糸魚川市中央公民館・前館長

◆永年勤続職員表彰

樋口 栄子 新潟市中央公民館・主査
水落 久夫 十日町市公民館・主査
中村 久和 糸魚川市小滝公民館・主事
斉藤 京子 糸魚川市今井公民館・主事
谷口 純子 糸魚川市大野公民館・主事
小田島 みわ子 糸魚川市根知公民館・副主事
平内 芳美 糸魚川市上早川公民館・副主事
仲倉 林 子 糸魚川市西海公民館・主事
倉高 石 勉 新井市公民館・館長
高橋 義行 新井市公民館・社会教育主事

◆公連勤続職員表彰

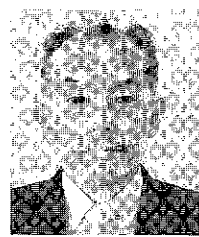
佐藤 泰子 新潟県公民館連合会・事務局職員

◆功労者表彰

山川 資郎 新潟県公民館連合会・元理事
瀬戸 満雄 新潟県公民館連合会・元理事
今井 昭友 新潟県公民館連合会・会長

子ども囲碁教室を通して思ったこと

柿崎町川西公民館長 佐藤 昭平



川西公民館の事業として「考える楽しさを大切に育てる」ことをねらいに、子ども囲碁教室を四年前から実施してきている。

年間50回、毎週土曜日の午後2時間半、自由参加で入会も退会もすべて自由というきまりである。参加者の多くは、小学校3年生以上の男女が殆んどである。出席者は一度体験すると殆んど退会することなく土曜日を楽しみにしている。その魅力はどこにあるのか、講師と子ども達に尋ねてみた。

る ば

講師は、「盤面上のどこに石を置くか、何通りも置く場所が考えられる。即ち、自分なりの多様な考え方で時間をかけて考えることができるよさがある。また、子ども一人一人の考える力が着実に身につく、学校の勉強に生かされている。しかし、子どもの中には、対戦相手を変えても集中して実践する粘り強さや、子ども達の声も聞いて、日常の生活の中でもっと納得のいくまで考える時間のゆとりを求めているのかもしれない。講師の、囲碁を通して地域の子どもの達に考える力を大切に育てていく姿勢に敬服している。

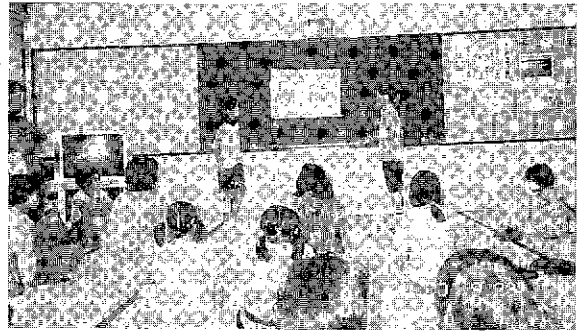
「考える楽しさを大切に育てる」ことをねらいに、子ども囲碁教室を四年前から実施してきている。年間50回、毎週土曜日の午後2時間半、自由参加で入会も退会もすべて自由というきまりである。参加者の多くは、小学校3年生以上の男女が殆んどである。出席者は一度体験すると殆んど退会することなく土曜日を楽しみにしている。その魅力はどこにあるのか、講師と子ども達に尋ねてみた。

会

時代に対応した、地域に根ざ

《答申》

公民館運営審議会



△青級(せいきゅう)フェスティバル

- ない現実がある。地域ごとに住民のニーズを集約する方法を再検討する必要がある。また、せっかく企画された事業がうまく地域住民に伝わっていないこともあるので、「公民館だより」といった既存の広報活動だけにとらわれず、多面的に広報する必要がある。
3. 地域内の諸団体や組織で様々な事業が企画・立案されているが、その種類と数が多い。事業の提携を図るため、今後公民館は、コーディネーターの役割を担うことが求められている。
 4. 現在の社会状況からみて、社会性や公共性の観点から事業を計画しても、地域住民のニーズとのずれがあるため、住民がその事業にあまり関心を持たない傾向が見受けられる。今後、十日町市として取り上げていかなければならない環境問題や情報化、国際化、家庭・地域の変化の問題といった現代的課題などは、社会教育行政の枠内では対応しきれないものもある。市行政や関連機関との連携を密にして取り組む柔軟さが望まれる。
 5. 今後ますます住民の自主活動が活発化するにつれ、施設の提供という機能はますます重要視されることとなり、幼児から高齢者までの幅広い年齢層の人たちが使いやすい施設となるよう、老朽化が進んでいる建物の補修と備品類の整備が望まれている。

課題に対する対応策

前述した現状と課題を踏まえ、事業の活性化を図るために次のことを提言する。

- ア. 公民館職員は、事業の企画・運営に重要な役割を果たしている。今、職員に求められているのは、地域の実態と課題を正しく把握する力と企画力である。そして、新たに求められるものは調整力である。職員の力量を高めるために、公民館事業に関する専門的な知識・技術研修の充実と、自主研修の奨励が肝要である。
- イ. 住民意思の反映機関としての運営審議会と地区館運営委員会を活性化することは当然であるが、企画会議や準備委員会、実行委員会等様々な形で住民参加による事業の企画・運営を積極的に進める必要がある。
- ウ. 地域に埋もれている様々な分野の専門家や一芸に秀でる人等多彩な人材を発掘し、これらの人々との協力関係を作るとともに、活動の場の開拓に努める必要がある。
- エ. 学級・講座で長期間学習を継続し、成員が固定している人たちをいつまでも主催事業の中に抱え込むのではなく、自主グループ化を促進するとともに、自主グループに対する支援のあり方を検討すべきである。
- オ. 本館事業と地区館事業の役割分担を明確にする必要がある。基本的には、地区館は地域住民の生活に密着した事業を重点的に、本館は地区館では実施が困難な事業、換言すれば専門的・高度な内容の事業と、交流やリーダー研修を実施することとする。なお本館は組織上、十日町地区館的機能も合わせ持っているものである。また、近隣の地区館との共同事業についても検討すべきである。
- カ. 事業の成果を、単に参加者数・実施回数あるいは財政効率といった外形で判断しがちであるが、このような量的な考え方を改め、教育的見地・公共の見地といった質を重視する評価を行うべきである。なお、事業の評価は主催者だけでなく、参加者自身によっても行われなければならない。
- キ. 広報活動は、各館とも広報紙等の印刷物を主体に行っているが、ロコミからインターネットまで、各種媒体を利用して多面的に展開する必要がある。
- ク. 市内・地区内の諸機関や諸団体・グループは、それぞれの目的に向かって活動をし、住民に対しても縦割り行政さながらの働きかけをしている。関連機関・団体相互の連携を図り、地域住民の立場に立って調整をすることが、地域センターとしての公民館の大きな役割でもある。
- ケ. 事業の充実と設備・資料の整備は不可分の関係にあるが、設備・資料の整備状況は貧弱の一語に尽きる。事業を魅力的・効果的なものにするために、集会や学習のための設備・資料と情報関連機器類の整備に力を注ぐ必要がある。

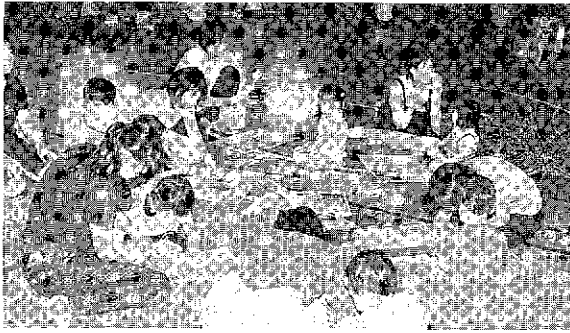
また、住民の自主的活動支援のための施設の在り方を検討する必要がある。

当面の重点事業

公民館事業では、住民ニーズの的確な把握が土台であり、住民の生活課題や地域課題の解決に役立つ事業でなければならないことは言をまたない。しかし、急激な社会の変化に伴う現代的な課題を取り入れた事業も積極的に展開する必要がある。「家庭と地域の教育力をいかに高めるか」、これはまさしく現代的な課題であり地域課題でもある。そこで、当面の重点事業として市公民館の全組織を挙げて、家庭と地域の教育力を高めるための事業に積極的に取り組むことを提言する。

子どもたちの心の発達には子どもを取り巻く社会の影響を大きく受ける。特に今日の変動の激しい社会においては、子どもの自然な道徳性を阻害している現象も多く指摘される。

まず、家庭や地域が果たしてきた教育機能が著しく低下していることである。すなわち、基本的なしつけや人間としての善悪の判断、そして思いやりや譲り合いの精神などは、本来家庭や地域で育まれてきた。しかし、今



△なかよしランド

特集 公民館運営審議

「少子・高齢化、地方分権の した公民館事業の在り方」

平成13年2月1日 十日町市

十公第31号
平成12年6月12日

公民館運営審議会 会長 様

十日町市教育委員会 公民館長 関口 弘治

「少子・高齢化・地方分権の時代に対応した、地域に根ざした公民館事業の在り方」について（諮問）
少子・高齢化・地方分権の時代に対応し、地域社会の要請と住民のニーズに沿った、地域に根ざした学びが、「人々の生活」や「まちづくり」に活かせる、公民館事業の在り方について、公民館運営審議会の意見を求める。
記

【諮問理由】

近年、地域や家庭環境が変化し、近隣社会での地縁的つながりが希薄化する中、家庭の教育力の低下も指摘されており、2002年からは完全学校週5日制への移行もなされる。

また、少子・高齢化の時代を迎え、人々のライフスタイルや価値観の変化、自由時間が増大する中、生き方や考え方・学習に対するニーズも、多様化・高度化をしてきている。

地方分権や行政改革、地域社会及び家庭の変化への対応等を考える時、生涯学習社会の構築に向けた社会教育行政・教育機関の果たすべき役割は大きく、取り組むべき課題も多い。

当市においては、平成10年3月・教育長諮問による社会教育委員会議の答申を受け、「学びのまちづくり」の生涯学習体制を整え、この推進に努めることとしており、培ってきた50年の社会教育の歴史と伝統を踏まえ、新しい世紀に向かっての公民館事業の在り方の見直しの必要性が生じてきている。

このことを踏まえ、地域社会の要請と住民のニーズに沿った地域に根ざした学びが、「人々の生活」や「まちづくり」に活かせる、公民館の事業内容・活動はどうあったらよいのか、諮問するものである。

なお、概ね本年12月末をもって答申がなされるよう、審議方お願いしたい。

はじめに

十日町市の公民館活動は、本館・7地区館・30分館で構成する公民館組織を通じて、全市的に展開されている。各地区に公民館を配置し専任職員を必置するという、市制施行以来一貫した社会教育・公民館重視の特長ある市政施策により、今や公民館は地域住民の暮らしに直結した、学習・文化活動及び地域づくりの拠点施設として各地区に定着しているといっても過言ではない。これはまさに、公民館の長年にわたる地道な活動の成果として評価されなければならないことである。

しかし昨今、国際化、情報化、少子・高齢化といった著しい社会の変容に加え、人々の価値観や行動・生活様式にも変化や多様化が起り、公民館にも学習の多様化と高度化に対応した身近な生涯学習のセンター的役割や、地方分権化が進められる中、地域の特性と独自性を重視した社会教育行政全般の中で、関連機関との連携を保ちながらの公民館活動が求められてきている。

そこで、当運営審議会ではこのような認識に立ち、十日町市公民館が現在抱えている課題を整理・分析し、今後の公民館事業のあり方を検討したので、ここに提言するものである。

ただし、たとえ社会状況がいかに変化していても、公民館は第一に地域に根ざし、地域住民の拠り所たるべきものでなければならず、当然地域住民自身の生活課題や地域課題の解決に役立つものでなければならぬ。したがって、今後の事業を考えるにあたっては、50年にわたって築いてきた公民館の歩みに学び、地域との結びつきを一層強め、住民の自治能力の向上を目指す事業でなければならぬことを、あえて付記したい。

公民館事業の現状と課題

『平成11年度 主要な施策の成果報告書』によると、十日町市公民館の年間利用状況は9,014件（本館 3,271件、地区館計 5,743件）、138,427人（本館 49,189人、地区館計 89,238人）である。そのうち、公民館主催事業は1,810件（本館 824件、地区館計 986件）、37,149人（本館 11,956人、地区館計 25,193人）となっている。この他に、市民会館ホールの利用状況は79件、24,980人、うち公民館主催は7件、1,790人である。

そして主催事業は、一定期間組織的・継続的に行われる集团的学習形態の学級・講座や、希望者がその都度任意に参加する諸集会・行事等々と多岐にわたっている。

1. 中核的である学級・講座は、趣味・けいここと等のやわらかい内容のものが多く、しかも、同一対象者に年々繰り返し実施するといった硬直化傾向が見受けられる。

また、時代の要請に即応した課題を取り入れた事業はほとんどなく、諸集会・行事等も型にはまりがちである。

2. 事業を企画する上で、地域住民のニーズを正しく把握できないことがあり、思うように地域住民を集められ

4 頁より

《答申》 その続き

日の家庭や地域においては、少子化がますます進むとともに、共同体も弱体化の方向に加速していることなどから、そのような機能が果たせなくなってきている。

第二は、子どもが感化され影響を強く受ける社会全体のモラルが低下していることである。そうした社会的風潮として次のようなものが挙げられる。

- ① 社会全体や他人のことを考えず、専ら個人の利害損得を優先させる。
- ② 他者への責任転嫁など、責任感が欠如している。
- ③ 物や金など、物質的な価値や快楽が優先される。
- ④ 夢や目標に向けた努力、特に社会をより良くして行こうとする真摯な努力が軽視される。
- ⑤ ゆとりの大切さを忘れ、専ら利便性や効率性を重視する。

第三は、物が豊富であり、機械文化が生活のあらゆる面に浸透し、個人主義の風潮が強まる中で、子どもの社会体験や自然体験が著しく不足していることである。豊かな心の育成には、直接人と人が触れ合うことや、自然や生き物との関わりを深めたり、ボランティア活動などの社会体験を充実させることが不可欠である。社会の変化に伴って、そのような体験が著しく減少しつつある。

こうした状況から、今日家庭や地域における子育て、教育は重要課題であり、公民館は関連機関と連携を図りながら積極的に関わる必要がある。

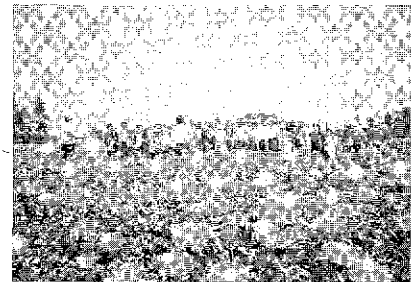
そのために、地域における子育ての実態と課題を把握し、両親と祖父母のために、子どもの発達段階に対応した家庭教育に関する学習機会を拡充する必要がある。特に、乳幼児期における子育てのあり方について、集い・学ぶ場と機会を設定し、関係機関・団体等と連携して事業を推進すべきである。

また、「学校週5日制」及び「総合的学習」に対応し、家庭・学校・地域がそれぞれの役割を発揮し、地域ぐるみの子育て・教育をするため、公民館が地域における体験活動等の支援を推進することが望まれる。

《参考》

家庭と地域の教育力を高めるための公民館事業企画のために

- ◎両親や祖父母のための家庭教育に関する学習機会と場の拡充
 - 発達段階 [乳幼児、小学生 (低学年、中学年、高学年)、中学生、高校生] に対応した集い・学びの機会と場の設定を。
 - 集会・集団形態の事業だけでなく、相談や届ける (通信) 事業の導入を。
- ◎乳幼児の両親や祖父母のための子育ての集いの開催
 - 失情に即して、慰いや親睦の内容を重視し、話し合い活動へ。
 - 市健康福祉課と連携した企画を。
- ◎講座「家族とは、家庭とは」の開設
 - 問題の核心にスポットライトを。
- ◎地域の伝統行事・文化的行事・体育行事の充実
 - 子どもの参画と自主運営による行事を。
 - 大人も一緒に遊び、作る、楽しむ、自然体験、創作活動等の共同体験を。
 - ジュニアリーダーと世話役、助言者の育成を。
- ◎子どものための公民館施設の提供
 - 誰でも自主的に利用できる子どもの部屋や、子どもの時間の設定を。
 - 世話役の育成。
- ◎関連機関・団体等との連携の強化
 - 地域ごとに、子ども・教育に関連ある諸機関・団体等との連絡会の定期開催を。
 - 事業の共同企画を。
 - リーダー研修の実施を。
 - 公民館はコーディネーター的役割を。



△明石学級「園芸コース」

結 語

十日町市公民館は、地域住民の暮らしに直結した施設として、各地区に定着しているといっても過言ではない。これは本館のみでなく、各地区館に専任職員を置き、専用施設を建設するという市当局の見識に起因するものであり、長年にわたる地道な公民館活動の成果として評価されるべきものである。

昨今の著しい社会の変化に対応して、公民館事業にも多様化・高度化が求められている。また、地方分権が進められる中、公民館の果たすべき役割はますます大きくなるものと思われる。

この度、公民館長の諮問を受け、当運営審議会では以上のような認識に立って、公民館事業の現状と課題について検討し、事業活性化のための方策について前述の通り提言をする。事業の企画・運営のキーワードは、参画・自主性、それに協働であり、それは地方分権の要諦でもありと考える。

さらに、当面の重点事業として、家庭と地域の教育力を高めるための取り組みを提言する。両親と祖父母のための家庭教育に関する学習の機会の拡充、特に乳幼児期の子育てについて、集い・学ぶ機会と場の設定の必要と、関連機関・団体との連携を強化するために、公民館のコーディネーター的役割の重要性を強調したい。

このような時こそ、十日町市公民館は現体制を堅持し、全館挙げて地域との結びつきを一層強め、住民の自治意識を高め、自治能力の向上を図る活動を積極的に推進するよう切望するものである。

終わりに、公民館職員の人事について、任命権者に次のことを要請したい。

適任者を配置し、公民館活動の継続性に留意した計画的な人事異動を行うこと。

サークル交流

違いを認め合いながら

(S H I P) 新発田市国際友好の会
この会は、平成五年発足しました。会員は現在三十六名です。考え方も違う外国から来た人々と、お互いに違っていることを認め合いながら交流し、支援をしております。市内や近隣に住む外国から来た人達を対象として、ボランティア日本語教室(毎週水、木)を開いておりますが、日本語の勉強だけでなく、みんなが何んでも話せる場になってきています。九月からは子育て支援もするクラスを始め

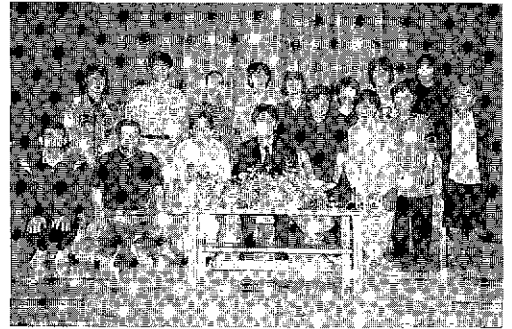


めまます。また、年に一回、国際交流パーティを行い、大勢の市民やいろいろな国の人達がそれぞれの国の料理を持ち寄って楽しみます。今年からA L T (英語指導助手)との交流パーティや外国人によるスピーチ大会を計画しています。また「S H I P NEWS」を発行して、会員に国際交流に関する情報を提供しております。現在市内で外国人登録をしている人達だけでも約三百四十名います。私達の活動はこのような人達にも私達にもこの街が住みよい街になることを目指しております。

(S H I P 高橋 紀子 記)

仲間づくりを大切に

和の会 和島村
和島村にはいろんなサークルが活動していますが、今回は手話サークル「和の会」を紹介いたします。毎月第2、第4花の金曜日集まって勉強していますが、もとは公民館の「英会話教室」を終了した仲間が、解散することを惜しみ存続を願って集ったことが動機です。そのため初めは何を学習しようか迷っていたが「手話サークル」としてす



に5年が経過、会員15名のほとんどが女性であり、同年代もあって和気あいあいの教室になっていきます。

今は村で行われる生涯学習フェスティバル出演のため猛特訓に励んでいます。出しものは「三枚のお札」と云う昔話を和島弁に直して演じることとしたため色々工夫を考えたり大道具、小道具の準備に大わらわの毎週です。会の活動が、障害をもった人に対する社会の理解が得られることを願っています。

機会があつて手話の第一人者丸山浩路先生につけていただいた「和の会」の名前が長く続き、10周年、20周年の記念事業ができることを願っています。

(同会代表 早川 かつみ 記)

新井市教育委員会 社会教育課

主査 櫻沢 良也 さん

「講座に参加したみなさんの喜ぶ姿を見るのが、何よりもうれしい。」と常に口にする櫻沢さんにとって、毎日の仕事は充実感に溢れています。というのも、現在進めているI T講習会が大変好評で、多くの受講生からお褒めの言葉をいただいているからです。労苦を厭わず、受講者の立場に



たった講座運営を続ける櫻沢さんならではの

素顔 拝見

結果ではないかと思えます。また、地域での信頼も厚く、消防活動など様々な分野でも活躍しています。以前は力が入りすぎて、ついつい夜遅くまで地域の方と交流(お酒?)を深めてしまったようですが、最近では三歳になったお子さんの顔が頭から離れず、早々と自宅へ向かうことが多いそうです。

市民に慕われ、地域に頼られ、そして家族をこよなく愛する櫻沢さんは、私たち職員への誇りです。

(新井市教育委員会社会教育課 宮川 尚史 記)

水原町教育委員会

生涯学習課 公民館

係長 渡辺 智恵子 さん

水原町公民館の歴史は古い。その中で女性初の公民館係長として、日々館を切り盛りしているのが、渡辺智恵子係長である。公民館はとにかく利用が多く、民謡・コーラス・文学等々幅広く多様であり、また他にも婦人組織活性化事業も担当しており、水原・堀越・分田の三地区の婦人をまとめるの事業企画運営を中心として行い、先進施設の研究・得意分野(本人には確認していませんが...)の季節



折々の料理 教室の開催 など席を暖める間もな い日々のよう

うです。しかし、そんな中でも机に向かっている姿はあせることなく、どっしりと構えている姿が見え、来館する方々に安心感を与えているようです。

言い忘れるところでしたが、外国のお菓子にも詳しい一面も時々みせてくれます。当分、公民館のマドンナとしての活躍は続くことでしょう。

(同課 遠藤 慎之介 記)

恵贈資料紹介

「新しい公民館活動」

地域の子どもが健やかに育つ

(社) 全国公民館連合会



平成12年度文部科学省の委嘱を受けて、「公民館を『家庭教育の拠点』として機能強化を図るための方策に関する実証的調査研究を行います。その結果を取りまとめた報告書です。

報告書は一冊ありますが、ここでは公民館活動の今後の方向を提言した冊子を紹介いたします。

恵贈資料紹介

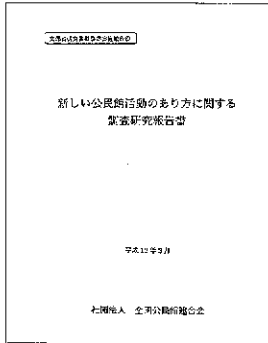
「新しい公民館活動のあり方に関する調査研究報告書」

平成11年度文部省委嘱事業実施報告書

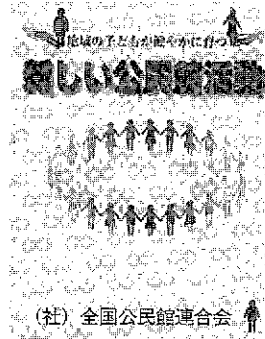
(社) 全国公民館連合会

全公連が平成10・11年度文部省の委嘱を受け実施・調査研究を取りまとめた報告書です。

内容は、第1部新しい公民館活動のあり方を検討するための事例、第2部新しい公民館活動のあり方「事例に学ぶ」、第3部新しい公民館活動のあり方についての考察「21世紀の公民館像をめぐって」、資料編等とから構成されております。



本県からは、第1部第2章「テーマ別事例2-1-1まちづくり」の項で、糸魚川市中央公民館と



(社) 全国公民館連合会

内容の、第1部では新たな公民館活動を求めて、○家庭教育の現状と課題、○家庭教育支援機能の改善、○学社融合の推進、

○地域における青少年育成活動における公民館の役割、○青年の教育・学習施設との連携による青少年教育育成事業等について記述され、第2部では、新しい活動を創る、として全国の具体的な特色ある実践例が紹介されています。
当県公連からも、新潟市坂井輪地区公民館青池真佐子館長が調査・執筆者として参画しております。

赤泊村公民館が紹介されており、私どもが大変参考になるのは、第11部第1・2章特色ある公民館活動の視察・ヒアリング報告、そして第13部「公民館の先進性、2. 地域の再生と公民館の役割 3. 時代・社会の変化と公民館の役割等」です。

全公連からの冊子は、会長・副会長の公民館に送付・配償。

〔平成13年11月の催物ご案内〕

〔☆両館20周年記念特別企画☆〕

新潟県立自然科学館は、昭和56年の開館当初から皆様と親しまれつづけ、今年11月1日に開館20周年を迎えることとなりました。感謝申し上げます。また、開館20周年を記念して次の行事を開催します。

- 子供無料招待デー
11月3日(日)及び11月4日(月)の2日間に限り、中学生以下の入館料が無料になります。(ただし、プラネタリアムは有料(小・中学生100円)です。)
- 記念特別展「サイエンスブック」 11月1日(日)～1月30日(日)
映像や実験装置などにより、物質の性質や原子の構造、核分裂について紹介します。
- 「なぜ?から始まる～マジックショー～」
①いろいろなマジック 11月3日(日)～11月11日(日) 1日数回実施
②ピエロマジックショー 11月3日(日)、4日(月)、10日(日)、11日(月)の4日間 1日数回実施
- 記念特別講演「雪国の野鳥を訪ねて」 11月4日(日)13:00～ 100名
日本野鳥の会新潟県支部の会員から、調査研究した内容についてお話しいただきます。
- ロボット競技大会 11月11日(日)
マイクロマウス、トレンスロボット、虫型ロボットの競技会を開催します。
- 記念品の配布(各日先着、数量限定) 11月3日(日)～11月11日(日)
開館20周年を記念して、ささやかではありますが記念品を配布します。

項目	大人	小・中学生
入館料	510円	310円
入館料+プラネタリアム料	710円	410円

○幼児、障害者手帳をお持ちの方は無料です。
○プラネタリアムを観望される場合は入館券が必要です。
○20名以上(有料入館者)の団体は割引制度があります。

11月の休館日、5日(月)、12日(月)、19日(月)、20日(火)、26日(月)です。
お問い合わせ先

☎(025)283-3331 FAX (025)283 3336

Eメール nsm@coral.ocn.ne.jp

ホームページアドレス http://www.lalanel.gr.jp/nsm/index.html

〒950-0948 新潟市女池南3丁目1番1号

新潟県立自然科学館

あ と が き

◇第24回全国公民館研究集会・長野大会に、本県から108名の多数の方が参加されることとなりました。第42回関プロ大会を兼ねておりますので、引継式も予定されております。

◇10、11月は、正に研修シーズン、上・中越地区公連の研修会が予定されておりますが、今井会長も多忙の中、日程調整の上、出席することとしております。

表紙解説

「夏休みチャレンジ教室」(竹の食器作り)

子どもたちに田上町特産の竹をよく知ってもらおうと今年から実施しました。この日は、竹の皿、コップ、はしを作りお屋に使ってソーメンを食べました。(田上町公民館)

発行所 新潟県公民館連合会
〒951-8053
新潟市川端町2-9・県林業会館内
TEL・FAX (025)224-6073
発行人 会長 今井昭友
編集人 事務局長 鈴木友夫
印刷 第一印刷所
〒950-8724
新潟市和合町2-4-18
TEL(025)285-7161 FAX(025)282-1776
【定価1部150円 年共1,800円】